

沼田市議会9月議会報告その③

安心して暮せる地域の確立を

井之川博幸議員の一般質問の報告



井之川博幸議員

沼田市議会9月定例会で、井之川博幸議員が行なった一般質問と星野市長の答弁の要旨は次の通りです。

井之川博幸議員は、安心して暮せる地域の確立について、地方の人口減少を食い止めることを目的としている「定住自立圏構想」を一つの指針として考えることも必要ではないかと提案し、現状としてまず、本市における

人口減少の状況とその対策について質問しました。

市長は、「平成17年の5万5,503人が平成21年には5万3,648人へと減少している。自然減対策として子育て支援など、社会減対策として地域産業の活性化策や都市との交流を積極的に推進し、定住促進に取り組んでいる。」と答えました。

井之川議員は、本市の人口減少は予想以上に速く進行しており、地域の衰退と平行している。そんな中、本市は利根沼田の中心といわれているが、定住自立圏構想で定められている「中心市」として実施していく考えについて質問しました。

市長は、「中心市としての要件は満たしていないが、利根沼田の広域行政、また生活圏の中心的役割を担っていくとともに、本市の活性化を図る施策を積極的に推進しているところである」と答えました。

働き場所が少ないことが最大の原因

ムダな事業を見直し投資に見合った活性化を

井之川議員は、県内で同等の渋川市や富岡市は「中心市」としての要件を満たしているが、本市が「中心市」としての要件を満たしていない原因は「都市機能の低下」、いわゆる「働き場所がすくない」ということが最大の原因であることを示し、本市が現在、多額の公共投資をしている事業があるにもかかわらず、投資に見合った活性化がはかられ（右上につづく）

ていないことを指摘しました。それらの理由として、特に街中再生は、やり方の失敗によって住宅・商店、人口の減少、空地の増大など再生・活性化に逆行している。他市では「環状線」などの沿線は賑やかになるが、本市では環状線沿線はほとんど「住宅市街地」指定をして「産業進出」にブレーキをかける方向をとっている。「望郷ライン」沿線も同様で、「活性化を目指す」などとはほど遠い施策が行なわれていることをあげ、各施策の見直しを求めました。

市長は、「研究してみたい。」と答えました。

井之川議員は、本市に町村の人も呼び込むように、医療や公共交通のいっそうの連携や市立図書館を利用した連携なども提案しました。

市長は、「今後も連携は推進してゆきたい。」と答えました。



本町通り商店街に唯一残されていた文化的歴史施設の「生方記念文庫」も解体されてしまいました

地域産業の活性化こそ必要

景気対策として住宅建設助成制度の実施を

井之川議員は、地域小業者に仕事を発注する「小規模工事等契約希望者登録制度」の登録者数と現在までの発注数と予算措置金額について質問しました。

市長は、「登録は現在59業者であり、建築工事が7件、土木工事が18件、設備工事が29件、計54件を発注した。発注済み金額930万円を含めて約7,230万円」と答えました。

井之川議員は、「小規模工事発注」を推進するとともに、景気対策として、「持ち家住宅建設助成事業（リフォーム助成を含む）」や「住宅耐震改修助成制度」を実施するよう求めました。

市長は、「調査・研究していきたい」という答弁にとどまりました。

なんでも相談会のご案内

10月21日(木) 午後6時から(毎月第3木曜日)

場所：井之川博幸市議宅 高橋場町333(4地区) TEL24-5022

2010年10月10日 No.534

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料